

Title	経済学会報告 (昭和四十年)
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1966
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.3 (1966. 3) ,p.351(131)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19660301-0131">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19660301-0131</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新刊紹介

中川友長著

『経済統計の方法』

計量経済学あるいは経済統計の書物もかなり出版されており、計量経済学では最近ジョンストンの翻訳、ゴールドバーガー等がある。本書はできるだけ広い範囲にわたって経済統計の方法を示そうとするものである。目次をみれば、経済方程式と識別の方法、偶然変動の分布、最大尤度法、最適値の導出、無差別曲線と定量的効用金高指数、線型計画、ゲームの理論、待ち合せの理論、若干の経済函数及び経済統計値、補説として主要統計値について、が述べられている。慶応大学の講座でいえば、数学I、II、経済数学、計量経済学、経済統計、統計学のすべてにわたっているといつてよい。したがって統計関係で現在問題になっていることがなにかを知る

には非常に便利な本であるといつてよいであろう。しかし広範囲にわたることはそれだけ各々の問題に対しては説明は簡単にならざるをえない。そしてはしがきに、「本書においては、方法の初歩基礎的な展開を示すに止めたものが多い」と述べているが、必ずしも初歩的とは思われない。著者が数学にすぐれているため数学的展開が多く初歩的な説明を望むものにとつては難解の感をあたえるのではないかと思われる。しかし例解もかなりあるので、初めてこのような問題に接する読者は最初に例解をよんで、それから理論的説明を読まれた方が理解しやすいのではないかと思われる。なお本文をよむには、あらかじめ統計的知識を必要とするので、巻末に補説として主要統計値の解説がのっているが、これだけではやや難解であろう。従つて読者はあらかじめ通常の統計学の書物を読んでその内容を一応理解してから本文を読まれた方が効率がよいかも知れない。従つて現在の制度では大学よりも大学院むきのテキストであるといつてよいであろう。多方面にわたるため、特

に計量経済学を勉強しようという人で、現在用いられている、二段階、あるいは三段階の最小自乗法、分散の均一性の除去、分散間の相関等に興味のある方は他の書物を参照しなくてはならない。ともあれハンドブック的な意味でも座右においてよい書物と考えられる。

(学文社・A5・二三八頁・一〇〇〇円) 佐藤 保一

経済学会報告(昭和四十年度)

- 昭和四十年
- 五月六日 世界の生活と貧困 中鉢正美
- 五月二十日 アメリカ産業革命の諸問題 中村勝己
- 六月三日 日本の産業構造と産業連関——重化学工業化の評価をめぐって—— 宮沢健一氏 (二ッ橋大学教授)
- 六月十日 「ソ連経済学者によるソ連経済計画に関する懇談会」 Y・N・フェデレンコ氏、O・レイニク・オパド氏、S・トルベキン氏
- 六月十七日 集団的厚生の大概念の形成過程 松浦 保
- 七月一日 低開発国問題に関する最近の展開について——国連貿易開発会議をめぐる論議を中心として—— 深海博明
- 九月十六日 アメリカの貧困問題 中鉢正美
- 九月三十日 低開発国に於ける経済発展と貿易の諸方策について (ストックホルム大学準教授) S・B・リンダー氏

- 十月七日 新一般自由人説について 宇尾野 久
- 十月十四日 産業に於ける技術と独占 植草 益
- 十月二十八日 経済発展と保護貿易 矢内原 勝
- 十一月四日 「宇尾野久、黒川俊雄教授就任記念講演会」 経済史学の現代的意味 宇尾野 久
- 十一月十一日 最適成長理論について 『労働力流動化』政策の特徴と性格 黒川 俊雄
- 十一月二十五日 企業者活動の国際比較史研究 最適用成長理論について 川又 邦雄
- 十二月九日 わが国近世(経済)思想の研究史 回 顧 島崎 隆夫
- 昭和四十一年
- 一月十三日 都市分布の法則性 高橋潤二郎
- 一月二十八日 相對所得仮説・絶対所得仮説及び習慣仮説の有効性について 小尾恵一郎